

次号予告

- 特集 理学療法・作業療法カリキュラムの検討
 学校教育におけるカリキュラムの考え方……………慶応大学 松本 憲・他
 理学療法教育カリキュラムへの換言
 ……………国療東京病院付属リハ学院 田村美枝子・他
 作業療法教育カリキュラムへの提言
 ……………北海道大医療技術短大 山 田 孝
 <座談会>変貌する PT・OT 教育
 高橋 正明・金子 誠喜・古川 昭人・富岡 詔子・(司会)大喜多 潤
 と び ら ……………東京慈恵医大 米 本 恭 三
 講 座 障害学概論 4. 機能・形態障害学(2)
 (中枢神経系の障害学)……………東大病院 上 田 敏
 PT・OT のためのマイコン入門
 4. ソフトウェア(1)……………労災義肢センター 大西 昇・他
 プログレス 頸椎・頸髄外科の最近の進歩……………慶応大学 平 山 洸
 インタビュー<PT・OT の挑戦>
 デパートの「老人福祉コーナー」で相談員を勤める…宮腰 正雄・梓田美江子氏
 あんてな PMD 者等による自立生活センターの運営……………高 野 岳 志

編集後記

寒気団に覆われた日本列島は連日震えあがっているようです。ここに3月号をお届けします。

とりあげた特集は、急性期心肺疾患の理学療法と作業療法ですが、この分野は欧米と比較して未だ遅れています。

最近わが国でも関心が高まってきて、PT、OT も取り組むようになってきております。心筋梗塞の慢性期に入ったのはかなり PT・OT が関与しているようですが、急性期の CCU の時期から介入しているのは未だ少ないようです。

同様に、術直後からの呼吸障害の急性期の滅菌操作や人工呼吸装置の操作やその離脱を含めた肺理学療法もこれから積極的に取り組むべき領域です。

今回は、急性期呼吸障害の医学的管理を木村氏に急性心筋梗塞の医学的管理を三船氏に執筆していただきました。いずれも合併症の予防とリハビリテーションの重要性が説かれています。

急性期心筋梗塞の理学療法は奈須田氏に、作業療法は兄玉氏にそれぞれ執筆いただきました。奈須田氏は何よりも患者の安全性を確保しながら、早期に質の高いリハビリテーションサービスの提供を強調し、兄玉氏は作業療法の真価は回復以後に発揮されるが、それへの導入として極く急性期から心理的サポートと ADL を中心とした OT アプローチが必要だとしています。一日も早く OT がこの領域で貢献することを希うものです。

講座は障害学概論が機能・形態障害学の各論に入ってきました、マイコン入門も佳境に入ってきました。

研究と報告、症例報告がそれぞれ一編ずつ、プラクティカル・メモも2編採用されました。このような臨床方面の報告が今後増えることを期待します。

厳しい寒さの中とはいえ春の足音が間近に聞こえて来ているようです。

(松村 秩)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長
 五 味 重 春
埼玉県障害者リハビリセ
ンター所長
 砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長
 津 山 直 一
東京大学教授整形外科
 水 野 祥太郎
川崎リハビリ学院院长
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部
 荻 島 秀 男
ペインリハビリテーシ
ョンクリニック高島平
整形外科
 大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター
 寺 山 久美子
都心身障害者センター
 富 岡 詔 子
信州大学医療技術短大
 奈 良 勲
金沢大学医療技術短大
 福 屋 靖 子
筑波大学
 松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

池 松 洋 子
伊 東 元
岩 崎 テル子
宇都宮 初 夫
金 子 誠 喜
鎌 倉 矩 子
木 村 信 子
菊 地 延 子
小 嶋 裕
斎 藤 みち子
鈴 木 明 子
高 橋 正 明
田 口 順 子
橋 元 隆
古 川 宏
松 沢 博
宮 崎 和 子
宮 前 珠 子
山 田 貞 雄
矢 谷 令 子
(担当 細田・西塚)